

平成25年度工事等事故防止重点対策項目を策定！

近畿地方整備局では、平成25年度の工事等事故防止重点対策を下記の通り定めました。来年度の重点対策項目については、今年度の重点対策項目及び事故発生状況を踏まえ、下記の新しい7項目になりました。

本重点対策項目は、4月1日以降に発生する事故に適用されます。



事故防止重点対策における事故が発生した場合の指名停止等の取り扱いについては、従前の措置より厳しくすることとします。

- ①地下埋設管及び敷設ケーブルに対する事故
- ②架空線に対する事故
- ③営繕工事における建物内の既存配管・配線等に対する事故
- ④草刈り作業における飛び石事故
- ⑤高所作業箇所からの墜落事故
- ⑥資材・仮設材及び工具の飛来落下事故
- ⑦重機の転倒・接触事故

平成25年度工事等事故発生状況(速報)

(平成25年2月末時点)

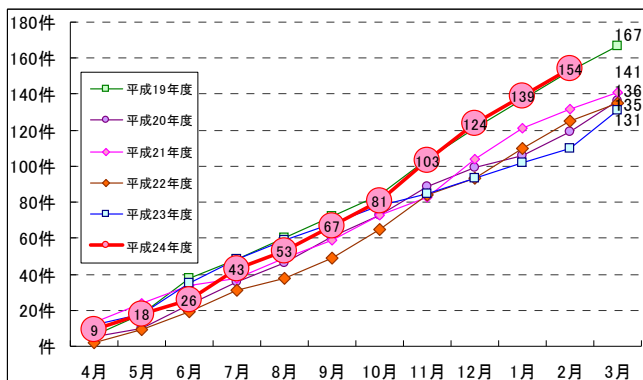


図1 年度別事故発生件数

■分類別事故発生状況

- もらい事故が平成23年度同時期から13件増加し、過去最多の平成22年度同時期に次ぐ、78件。
- 管理施設損害事故は、H23年度同時期に比べ8件増加し、過去最多の平成19年度同時期の45件を上回る48件発生。
- 公衆災害(もらい事故を除く)118件は、例年同様、事故全体の約77%を占める。

■平成24年度の事故発生件数、発生率

- 全事故件数は、H23年度同時期に比べ44件増加し、過去最多のH19年度同時期の158件に次ぐ154件。
- 9月以後の月別発生件数は、過去5年間の発生状況と比較して、常に上位の発生状況。
- 履行中の工事件数に対する事故の発生件数(業務・役務を除く)の比率である事故発生率は、近年の5~6%程度から8.1%と大きく上昇している。

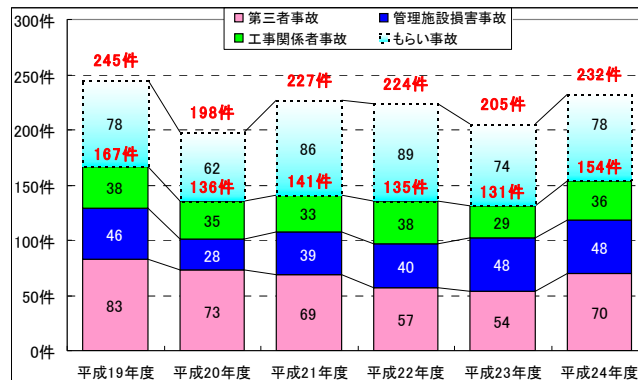


図2 事故分類別事故発生状況

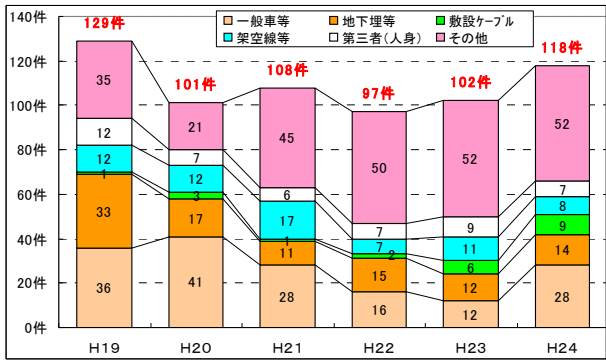


図3 公衆災害事故の内訳

■工事関係者事故の発生状況

- 工事関係者事故は、昨年同時期から10件の増加で、平年並みの件数。
- 発生形態では、墜落事故が昨年度を2件上回る5件に増加。
- 死亡事故は、ウォータージェットでのはつり作業において作業員本人に高圧水が当たって死亡した1件が発生。

■公衆災害事故の発生状況

- 公衆災害全体では、H23年度同時期から33件の大幅な増加(約139%)で、118件発生。
- 敷設ケーブル(打込配管等含)の損傷事故が、昨年同年の6件を上回る9件に増加。
- 近年減少傾向だった一般車の損傷が、平成23年度の12件から28件に大幅増加、その内14件は現道等における交通事故。

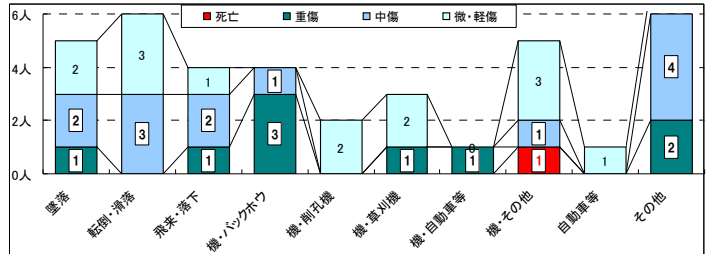


図4 工事関係者事故の内訳

■重点対策項目等の事故発生状況

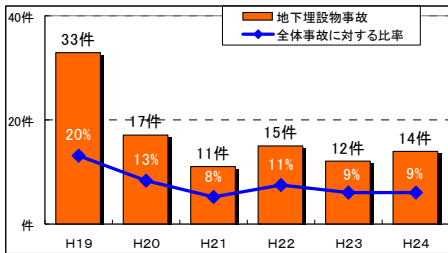


図5 地下埋設管事故発生状況

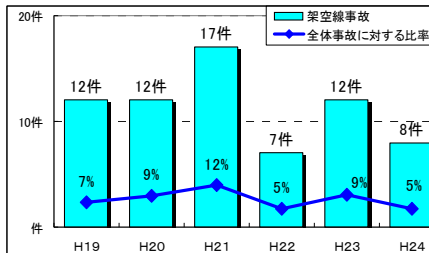


図6 架空線事故発生状況

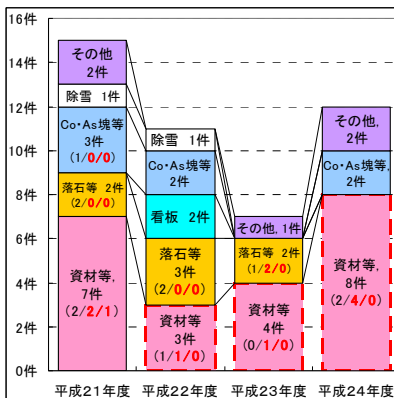
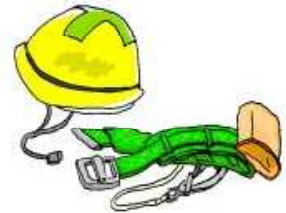


図7 飛来・落下事故発生状況

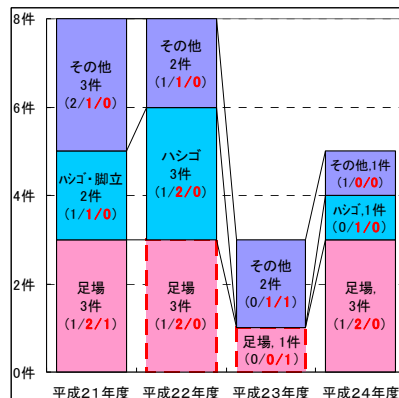


図8 墜落事故発生状況

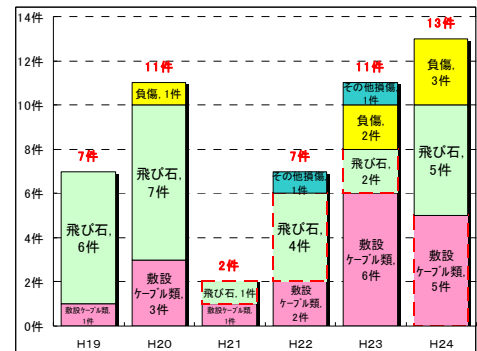


図9 草刈り作業おける事故発生状況

※表内の(O/O/O)は、軽傷者/中傷+重傷者/死亡者の人数
 ※表内の は、重点対策項目

- 草刈り作業における事故では、H24年度に重点対策項目から除外された飛び石事故が、昨年の2件から5件に大幅増加。
- 墜落事故が昨年度3件から5件に、資材等の飛来・落下事故が昨年度4件から8件に、ともに大幅に増加。
- 営繕工事における事故が、例年の5件前後から17件に大幅に増加、特に配管・配線類の損傷が6件に大幅に増加。

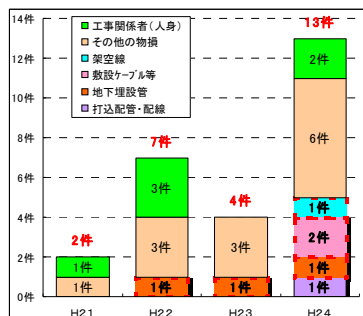


図10 営繕関係工事事故発生状況

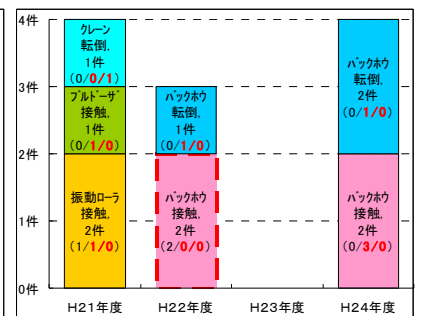


図11 重機接触・転倒事故発生状況

- 昨年度は発生しなかった重機の転倒・接触事故が、今年度4件(重傷者4名)発生。

今年度も事故ゼロを目指し、「ご安全に!!」